

話題提供メモ(2013年12月16日JSCEにて)

## 「河川＋地域計画連携研究」の 今後の方向性

家田 仁

(東京大学・社会基盤学専攻：交通・都市・国土学)

1

### ■従来の典型的な連携研究スタイル

- **即地性**の高い**学術研究**
- 水工学研究者＋計画学研究者の  
**共同研究体制**
- **河川事務所との事前連携**

→学術的にも意義が高く、実務者にとっても有用な多くの知見を生み出した。

(ex.嘉瀬川流域の治水・地域開発史研究)

2

## ■従来の限界性

- 1) 実務的な「プロジェクト調査」や「実務課題整理・実務政策提言」のタイプの研究、あるいは即地性にこだわらない「方法論研究」がやや手薄ではないか？
- 2) 「水工学研究者との共同」及び「現地河川事務所との事前連携」が建築系都市計画分野、社会・人文科学系分野の人たちにはハードルが高い。逆も同様。潜在的な協力者を逸失していないか？

3

## ■これからの方向性

- 1) 研究タイプの複線化
- 2) 研究実施体制の柔軟化
- 3) 推進体制の充実
- 4) 「特定テーマ」の設定と「戦略フォーラム」の設置

4

## ■今後の方向性（1）

### 1）研究タイプの**複線化**

- ・ **即地性の高い学術研究**（従来型）
- ・ **方法論研究**  
例えば、費用対効果分析の分野間比較、日本社会の特性を踏まえたリスク評価法...
- ・ **プロジェクト調査**  
例えば、具体的な連携プロジェクトのFS及び実施方策...

5

## ■今後の方向性（2）

### 2）研究実施体制の**柔軟化**

- ・ 「河川+計画」の**共同研究体制を必ずしも要求しない**（**テーマが十分に連携的なものであればそれで良しとする。**）
- ・ **必ずしも現地河川事務所との事前連携を要求しない。**
- ・ 必要に応じて、現地事務所や地方整備局を**研究採択後にサポーターとして紹介**する。
- ・ テーマによっては、現地事務所や地方整備局ではなく、**本省がサポーターにあたる。**（ex.一般的な方法論研究）

6

## ■今後の方向性（3）

### 3）推進体制の充実

- ・土木計画学委員会に加え、JSCEの**土木史委員会**などや、**都市計画学会**の該当委員会を水工学委員会のパートナーに加える。
- ・連携委員会と本省が応募者からの**事前相談・アドバイスの体制**を作る。

7

## ■今後の方向性（4）

### 4）特定テーマの設定と戦略フォーラムの設置

#### ①一般テーマに加え「特定テーマ」を設定して募集

例えば、

- ・降雨の激甚化を踏まえた**超過洪水対策、ポストスーパー堤防政策**
- ・下水道・内水対策と本川対策の地域政策面から見た整合化
- ・日本社会の特性を踏まえた**リスク評価**のあり方
- ・事後評価実績レビューによる**防災事業評価方法**の分野間比較
- ・東日本大震災被災地における**防潮堤整備事業と地域復興事業の整合性**

#### ②多分野の有識者を集めた「戦略フォーラム」を設置し**骨太の政策提言**をまとめる。

8